記憶のつくり方

長田弘

晶文社

著者について
長田弘（おさだ・ひろし）
詩人。一九三九年福島市生。早稲田大学卒業。主な著書に『詩人であること』（岩波同時代ライブラリー）、『詩と時代1961―1972』『対話の時間』（晶文社）、『見よ、旅人よ』『詩人の紙碑』（ともに朝日選書）、『私の二十世紀書店』（中公新書）、『失われた時代（1930年代への旅）』（筑摩叢書）、『散歩する精神』『読書のデモクラシー』『感受性の領分』（いずれも岩波書店）、『われらの星からの贈物』（みすず書房）、『詩は友人を数える方法』『小道の収集』『自分の時間へ』（いずれも講談社）、『アメリカの心の歌』（岩波新書）。

記憶のつくり方

一九九八年一月二〇日初版
一九九八年二月二五日二刷

著者　長田弘
発行者　株式会社晶文社
東京都千代田区外神田二－一－一二
電話東京三二五五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）
振替〇〇一六〇－八－六二七九九
堀内印刷・美行製本
© 1998 Osada Hiroshi
Printed in Japan
Ⓡ本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（〇三―三四〇一―二三八二）までご連絡ください。
〈検印廃止〉落丁・乱丁本はお取替えいたします。

記憶のつくり方

長田弘

江苏工业学院图书馆
藏书章

晶文社

I313.65
J4632

晶文社　定価［本体1800円＋税］

ISBN4-7949-3531-5

C0092 ¥1800E

1920092018006

記憶のつくり方

長田弘

晶文社

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

ブックデザイン　平野甲賀

記憶のつくり方・目次

むかし、遠いところに　11

I

鬼　17
夜の火　21
明るい闇　25
路地の奥　29
肩車　33
最初の友人　36
風邪　39
鳥　42
ジャングル・ジム　46

II

少女と指　53
橋をわたる　57
階段　61

海を見に　65
竹の音　69
おにぎり　73
神島　76
ルクセンブルクのコーヒー茶碗　79
自分の時間へ　83
III
悪魔のティティヴィルス　91
謎の言葉　94
プラハの小さなカラス　103
雨の歌　107
みずからはげます人　116
あとがき　121

記憶のつくり方

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

むかし、遠いところに

むかしむかし、ずっとむかし、まだ世界ができたてのころ、遠い遠いところに、小さなおばあさんがいました。おばあさんは世界と一緒に生まれたので、おばあさんの年の数と世界の年の数はおなじでした。おばあさんが好きなのは、この世界のうつくしい色をたくさん集めて、世界の風景をもっとうつくしい色に染めることでした。

青いだけだった世界の空に、一日の始めと終わりの朝焼けと夕焼けの赤をくわえて、すばらしい空の色をつくりだしたのは、小さなおばあさんです。そのころは世界のどこにも神々がいました。神々は小さなおばあさんが大好きでした。小さなおばあさんに頼めば、

どんなものにもふさわしいうつくしい色をきっと考えだしてくれたからです。

たとえば、森の色。それぞれの木の緑をぜんぶちがう緑にし、さらに四季ごとにどの緑もちがってくるように考えたのは、小さなおばあさんでした。

神々はときに世界に雨をふらせました。しかし、雨があがったあとの世界を見ると、神々はいつも顔を曇らせました。何かが足りないのです。雨があがったあとの世界はなんだかがらんとして淋しいのです。神々は小さなおばあさんに言いました。ものみなが悦ぶような、たくさんのきれいな色が欲しい。

おばあさんはじっと考えて、神々のために、とっておきの九つの色をえらびました。しかし、この世界の人間たちのために、葡萄酒色とピンクの二つの色はとっておきたいと言いました。人生をおい

しくする飲みものと、この世界を明るくする女の子たちのために。こうして、のこりの赤、橙(だいだい)、黄、緑、青、藍、紫の七つの色を、神々が雨のあとの空に力いっぱい投げあげてできたのが、雨の弓、虹です。

虹の七つの色に葡萄酒色とピンクがないのは、そのためです。小さなおばあさんの名はマザー・アース。しかし、小さなおばあさんのことが大好きだった神々は、いまはもういません。

I

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com